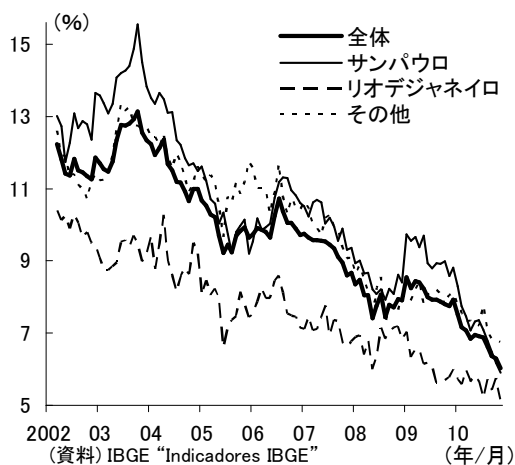


体質強化が進むブラジル経済

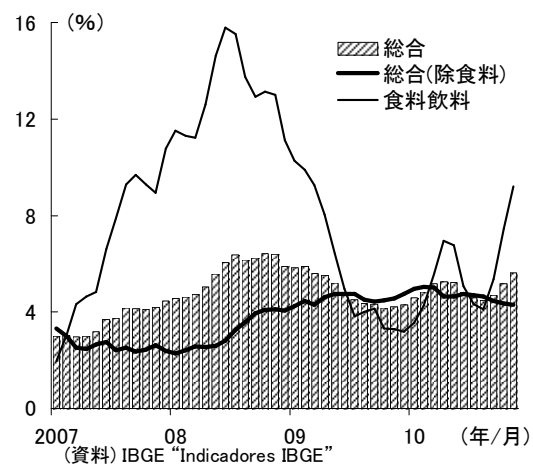
～ 新政権はルラ政権を踏襲し、一段と力強い経済成長へ ～

- (1) ジルマ新政権が2011年1月に発足。ルラ政権の路線を踏襲し、引き続き底堅い成長持続の見込み。加えて、このところブラジル経済の体質強化や外的ショックへの耐久力強化が確認。
- (2) まず雇用情勢の改善。10年11月の失業率は季調済で6.0%、原数で5.7%と過去最低水準に低下(図表1)。かつては地方圏で雇用改善が遅れるなど、都市圏と地方圏との格差問題が深刻化。しかし近年の雇用改善はほぼ全土に互る動き。都市圏に偏らず、様々な地域が独自の活力を発揮。
- (3) 次いで物価の安定。消費者物価全体では10年8月の前年比4.5%から11月同5.6%へ騰勢加速(図表2)。しかし主因は食料品。食料品を除くベースでみると、10年2～3月の同5.0%から11月には4.3%へ騰勢鈍化。90年代半ばまでのハイパーインフレ経済から大きく変貌。
- (4) 好調な経済と物価安定は厳格な金融政策の成果。90年代半ばから名目GDPと貨幣供給量の推移をみると、2000年代半ば以降、貨幣供給量の増勢が加速(図表3)。しかし2000年代半ば以降の変化は、物価急上昇期に機能停止していた金融が物価安定によって始動した結果。むしろ積極的に評価すべき動き。加えて、リーマンショック後の過剰流動性は米国など各国比限定的。新トンビニ中銀総裁は長らくメイレス現総裁の右腕。金融政策も踏襲の見込み。
- (5) さらに国際的な過剰流動性への対応に何らかの市場管理策が必要ななか、10年10月マンテガ蔵相は資本投資のための為替取引に課税する金融取引税を引き上げ、弾力的かつ断固たる対応(図表4)。以上に照らせば、新政権下、同国経済は一段と力強い成長を進む公算大。

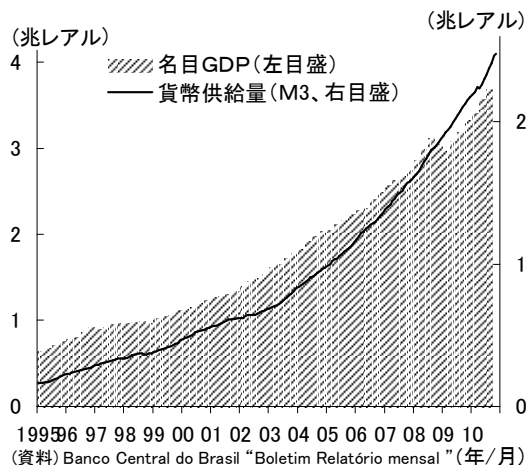
(図表1) ブラジルの地域別失業率(季調済)



(図表2) ブラジルの消費者物価上昇率(前年比)



(図表3) ブラジル名目GDPと貨幣供給量(季調済)



(図表4) ブラジル・レアルと中国・人民元の推移

